# 2024年 回答者座談会

# 夫婦のトラブルに変

掲載開始から110年を迎えた本紙くらし面の「人生案内」には、今年も多くの相談が寄せられた。「人生100年時代」らしく老後や介護に不安を抱いたり、生きる意味や自分の価値に悩んだりする相談が目立った。妻からモラハラを受けている夫からの相談が相次ぐなど、夫婦に関する相談に変化が見られた。2日に開いた座談会では、回答者12人がこの1年間の相談を振り返った。また、1人はコメントを寄せた。（司会＝竹之内知宣・読売新聞東京本社生活部長）

## ＊人生100年時代

――今年は、人生100年時代の到来を意識させる相談が目立った。

海原　50代のフリーランス女性から「人生のピークを過ぎ、この先、老いて死ぬのを待つばかり。絶望感でいっぱい」という相談が届いた。50代は仕事の経験も重ね、充実した年代だと個人的には思うのだが、日本では若いと「かわいい」と喜ばれ、30代後半になると就職しづらくなるなど、年を取ることがネガティブに捉えられがちだ。今の自分が持っているものに気づき、それを生かしていけるようになってほしい。そのためには、型に当てはまらない、オリジナルの人生を作っていく力が求められる。

佐貫　「自由を奪う90代の母が疎ましい」という相談には危うさを感じた。「国は高齢者に予算を配分しすぎだ。若い世代にもう少し配分を」という意見はあるが、娘が母親について「長生きの母親が疎ましい。医師は薬を出し過ぎている。治療費や薬代が若者世代の負担になっている」と言うのは残念だ。長寿は言祝ぎであり、高齢者が長生きして申し訳ないと思う社会には決してなってほしくない。

大日向　悩みから閉塞感を感じることも多かった。仕事や子育てを終えたシニア世代が、これから先の生き方が見えないと悩んでいる。やってきたことに自信が持てず、自己肯定感も持ちづらくなっている。

## 人生案内

## ＊生きる意味

――生きる意味や自分の価値を問うような相談も多かった。

増田　20代で、サークル活動や旅行などやりたいことは全てやり尽くして、これからの人生に希望が持てない、という相談があった。若い人たちに、達成感が不足しているのではないかと感じた。モノがあふれる便利な生活を送る中、すごく苦しい思いをして、ようやくこれをつかんだ、という体験がないのだろう。私の青春時代は修行僧のような生活だったので少しうらやましいが、上の世代が、若い人に達成感を味わわせる機会や舞台を作ってあげることも大事ではないか。

小川　昔は、仕事や結婚などによって人生の歩み方がたいてい決まっていた。今は、世の中が多様化、高度化し、複雑になっているからこそ、なかなか生き方を選択できないということも出てきていて、生きる意味や自分の価値を問う相談につながった。ルーマニアの哲学者シオランは、「人生に意味はないからこそ、人は自由に生きられる」と言っている。人には無限の可能性があるということをあらゆる世代が知り、今の状況を突破して新しい仕組みを作っていくことが理想だ。

――「生き直せるか」という深刻な相談もあった。

最相　40代の男性受刑者からの「出所後、生き直せるか不安」という相談だ。10代から暴力団組員として活動し、約10年服役したが、出所後は家族のために生きたいという。相談者は、求人倍率が低かった就職氷河期後期世代と思われる。なぜ10代で暴力団に入らなくてはならなかったのだろうと考えさせられた。岸田前首相時代に、従業員のリスキリング（学び直し）が散々言われたが、挫折したり、休んだり、くじけたりした人も、もう一度生き直すことができる社会にしていくべきだ。回答では、本気で生き直すことを考えるのなら、本気でバックアップする人たちが今の日本にいることを伝えた。何とか支援につながってほしい。

## ＊介護

――介護の相談も多く寄せられた。

山口　夫や自分の親の介護で苦労した女性が、親たちを見送った後も嫌な思いが頭から離れない、という相談が目立った。女性たちの夫は味方になってくれなかったのではないか、と思った。強調したいのは、家族が倒れた際は、決して一人で抱え込まないでほしいということ。仕事も辞めてはいけない。とにかく要介護認定を受けてサービスを利用してほしい。

佐貫　寝たきりになる4や5になるまでサービスがたくさんあるのに、使えない人も多いが、支援センターに相談を集し、利用してほしい。

山口　私は、夫を介護していた。ヘルパーさん、訪問医らに来てもらいたかった。

――男女間の悩みはどうか。

藤原　「共働き夫婦の妻」という相談だった。生活費も夫が作っていた。夫が作った100万円の貯金を、し合いもできないまま、よるモラハラ夫に対

## 型にはまらず生きる　人には無限の可能性

## 長寿言祝ぐべきもの　介護一人で抱えない

## 相談者と対話の感覚　子どもに耳傾けたい

## 報道価値ある生の声　愛に悩むバブル世代

## 自分の道ためらわず　生き直せる社会必要

## 若者に達成感の機会　人はコスパ悪いもの

海原純子さん
（心療内科医）

大野裕さん
（精神科医）

大日向雅美さん
（大学学長）

小川仁志さん
（哲学者）

尾木直樹さん
（教育評論家）

最相葉月さん
（ライター）

佐貫葉子さん
（弁護士）

藤原智美さん
（作家）

増田明美さん
（スポーツ解説者）

山口恵以子さん
（作家）

山田昌弘さん
（大学教授）

いしいしんじさん
（作家）
※オンラインで参加

### 回答者が挙げた印象深い相談

| | | | |
|---|---|---|---|
| 海原純子 | ピーク過ぎ　老い先絶望感 | 50代女性 | 1月19日 |
| 大野裕 | 能登地震　報道見て悲嘆 | 40代女性 | 2月3日 |
| 藤原智美 | 生活費出さない正社員の妻 | 60代男性 | 2月27日 |
| パトリック・ハーラン | 劣等感の塊　自分が嫌い | 10代女性 | 4月1日 |

様々な相談を受けられることは、「気遣う主婦の相談待値を少しでも待った僕の回答を

50